

# 山室軍平

## — 良心の実践者 —

日本の社会福祉の黎明期、この分野における先駆的な貢献をなした人物に山室軍平（1872-1940）がいます。同志社で学び、後に日本救世軍の発展にも尽力した山室軍平に光をあてることによって、「良心の実践」について共に理解を深めていきたいと思えます。彼の生涯を描いた映画『母の願い～地の塩「山室軍平」』を製作した映画監督・東條政利氏を招き、多面的に彼の生き様に迫っていきます。

● 日時：2016年11月25日（金）16:40 — 18:40

● 場所：同志社大学 今出川キャンパス

同志社礼拝堂

● 講演：木原活信（同志社大学 社会学部教授）

東條政利（映画監督）

司会：小原克博（同志社大学 神学部 教授、良心学研究センター長）

コメンテーター：和田喜彦（経済学部 教授）、川満直樹（商学部 教授）

■ 問い合わせ 同志社大学 良心学研究センター

CONSCIENCE

E-mail: [rc-csc@mail.doshisha.ac.jp](mailto:rc-csc@mail.doshisha.ac.jp) <http://ryoshin.doshisha.ac.jp>

良心を世界に—良心を覚醒させる知の連携と知の実践 良心学研究セン

ターは、現代世界における「良心」を考察し、その応用可能性・実践可能性を探求することを通じて、学際的な研究領域として「良心学」を構築し、さらにその成果を国内外に発信し、新たな学術コミュニティを形成することを目的としています。

## 講師略歴

### 木原 活信（きはら かつのぶ）

同志社大学社会学部教授。博士（社会福祉学）。

広島女子大学助教授、東京都立大学助教授、トロント大学客員研究員を経て、現職。専門領域は、福祉思想史・福祉哲学、ソーシャルワーク論。社会福祉法人京都基督教福祉会理事。主著に『J.アダムズの社会福祉実践思想の研究』（川島書店 1998）（福武直賞受賞）、『対人援助の福祉エートス』（ミネルヴァ書房 2003）、『社会福祉と人権』（ミネルヴァ書房 2014）、『弱さの向うにあるもの』（いのちのことば社、2015）、『自殺をケアするということ』（ミネルヴァ書房、2015）、「同志社のアイロニーー山室軍平の中途退学ー」『新島研究』第 82 号 1993（新島論文賞受賞）

### 東條 政利（とうじょう まさとし）

1968 年、新潟県長岡市生まれ。新潟県立長岡高校卒業。1991 年同志社大学文学部社会学科卒業後、太秦の松竹京都映画撮影所内の KYOTO 映画塾ディレクターコースで映画制作を学ぶ。在学中に『枕草子』（1996 年／ピーター・グリーンウェイ監督）に制作スタッフとして参加。その後、助監督として作品に参加する。2005 年制作の「9/10 ジュウブンノキュウ」で初めて映画を監督する。

#### 監督作品

2006 年「9/10 ジュウブンノキュウ」（2006） 監督・脚本  
プチョンファンタスティック映画祭（韓国）、ワールドシネマフェスティバル（ブラジル）、長岡アジア映画祭、岐阜アジア映画祭招待作品。日本映画監督協会新人賞候補作品。

2009 年「カフェ代官山～それぞれの明日～」（2009） 監督

2010 年「half awake」（ショートフィルム） 監督・脚本・編集

長岡アジア映画祭、宝塚映画祭招待作品、リッチモンド映画祭招待作品

2013 年「暴走」 監督・脚本・編集

2017 年「地の塩 山室軍平」 監督・脚本

**山室軍平の「良心」の実践思想**  
**—同志社・キリスト教・社会福祉界における位置と評価—**  
同志社大学 社会学部 木原活信

## 1. 山室軍平とは誰か

山室軍平は、石井十次、留岡幸助らと並んで日本の三大社会事業者の一人と評価されている一方で、日本を代表するキリスト教大衆伝道者の一人とも称される類い稀な人物である。彼は1872年に岡山に生まれ、東京で活版工として働いていた1888年に路傍伝道を通してクリスチャンになる。そして新島襄を慕い、「一国の良心」という思想に傾倒し、1889年に同志社に入学し、苦学しながら学んだ。在学中には石井十次の岡山孤児院、濃尾大震災の支援活動など「良心の実践」に尽力した。しかし新島襄の死後、当時の同志社が、欧米の自由主義神学の影響が強くなったことに反発し、「良心ゆえに」1894年に退学する。

その後、1895年に救世軍入隊し、日本人として始めて救世軍士官となる。救世軍とは、英国のウィリアム・ブースが創設したキリスト教社会事業団体であるが、今日世界的広がりをもつ。1899年『平民の福音』を刊行したが、これはキリスト教文献の古典として評価され、海外にも翻訳されるなど500刷を越えるほどのベストセラーとなり、今日でも親しまれている。山室は生涯、キリスト教伝道者として大衆に分りやすく福音宣教に情熱を傾けるとともに、日本救世軍を組織して様々な社会問題の解決に奔走した。特に娼妓廃業に尽力して、遊郭廃止を訴え、その利権に絡む闇組織と対決したことや貧困者や失業者のために労働紹介所を設置した他、無料食事サービス（慈善鍋）も行った。また児童虐待防止法等の問題に着手するなどあらゆる社会悪と「一国の良心」として闘い続けた。

その思想的特徴は、キリスト教の福音と社会問題解決を一体として捉える点である。つまり、信仰においては敬虔な福音主義の立場を貫徹したが、同時に社会の底辺に苦悩する人々の現実問題に実際に応えた。キリスト教が社会問題を忘れて教会内だけに留まる姿勢を批判したが、同時に教会が社会のなかに埋没し、世俗化の波に吞まれる姿勢をも批判した。生涯を貧しく小さき者の友として生き抜いた「偉大な同志社退学者」は1940年永眠するが、後に「同志社の良心」、「もっとも同志社人らしい人物」とも言われた。同志社のクラーク館2階には山室を記念して「神ト人道ノ為ニ」と銘打ったタブレットが今も飾られている。

## 2. 事業の全体像

**著述・出版：**「閑声」（ときのこゑ）編集 『平民之福音』『社会廓清論』他多数

**自由廃娼運動と女性支援：** 醜業婦救済所（⇒東京婦人ホーム）女中寄宿舎、生業資金

**失業労働対策事業：**労働紹介所（職業紹介所の先駆）労働寄宿舎（自助館、努力館、民衆館へ）

**犯罪者更生・社会復帰支援：**出獄人救済所（⇒救世軍労作館）希望館（軽犯罪者の復帰施設大阪）

**医療保健事業：** 救世軍病院 結核療養所

**貧窮者事業：** 歳末慈善鍋

**災害支援事業：** 東北凶作地子女救護運動 関東大震災への支援

**セツルメント事業：** 大学殖民館（5年後失火で廃止）社会殖民部 部落解放運動 愛隣館

**相談事業：** 身の上相談事業

**児童虐待防止運動：**（⇒1933 児童虐待防止法へ「芥種寮」開設）

### 3. 福祉実践の特徴

**組織力：** 事業の幅の広さ その規模の大きさ

人脈の広さ キリスト教関係者、教育福祉関係者、企業、皇室にまで

国際性 救世軍ネットワーク⇒（戦時下で国粋主義的へ）

**行動力：** 眼前の社会問題へプラグマティックな対応 迅速性

**対象：** 「小さくされた者へ」「最暗黒へ」 貧困にあえぐ労働者、娼妓→「底辺への志」

**理念：** キリスト教に根差した実践 キリスト教と福祉を一体化させている

**意義：** 個人の慈善事業から社会事業（「積極的慈善事業」）へと展開

#### 4-1. 同志社での位置と評価

同志社クラーク館に山室軍平を記念して「神ト人道ノ為ニ」と銘打ったタブレットが今も飾られている。これは宣教師デービスの息子ジェロームの寄付記念に設置されたが、その趣旨が「同志社出身者中最大なる人物」を記念するというものであった。これに山室が選ばれたことは、「同志社人」としての最高の荣誉であるが、それはアイロニーでもあった。なぜなら彼は正確には卒業生ではなく中退者だからである。山室は、新島襄を慕い1889年に同志社に入学して苦学しながら学ぶ。しかし新島死後の自由主義神学の影響に反発し1894年に退学している。この「偉大なる中退者」こそが、「最大なる同志社人」とされたのである。山室の同志社での評価は以下の言葉に集約される。「同志社の伝統的精神を以て、世に起つてゐるのは山室中将である。中将は本流を継いで来たが、私共は支流である。中将は本家で、私共は分家である」安部磯雄（1932）。まさに山室こそ新島襄の「同志社の良心」の「本流」であり継承者なのである。

#### 4-2. キリスト教界での位置と評価

「若し我国に世界的人物があるとすれば、それは救世軍の山室軍平と『死線を超えて』の賀川豊彦である」（安部磯雄、鍵田研一『伝記小説賀川豊彦』1934 巻頭序文）にあるとおり、賀川と双璧なる人物として評価される。日本を代表する三人の説教者の一人としても称される。キリスト教関係者との交友関係も幅広く、同志社の先輩であり岡山県人の留岡幸助との交友もあったが、むしろ同じ岡山県人の石井十次とは互いに共鳴・協働して日本の社会事業を担った。多くのキリスト教関係者をその激しい主張ゆえに排除した内村鑑三とも生涯親交を深め合った。

彼の信仰は、「聖潔の体験」を強調するホーリネス的影響が強い。「聖書信仰」「福音派」「保守派」のプロテスタンティズムの信仰を堅持しつつも、行動において革新的で「社会派」であったことが特徴である。通常、社会派は、リベラルな神学を基礎にしていることが多いが、その点で山室は例外的である。現在アメリカなどで注目される福音派左派という軸と連動する。宗教的に保守、政治的に左派という異色の組み合わせである。ただし、むしろ個人の枠組みではなく、救世軍としての思想に連動するのでその評価は難しいが、救世軍の思想が彼の信仰にマッチしていたともいえる。

キリスト教が社会を忘れ教会内のみにも留まる姿勢が批判され、同時に教会が社会のなかに埋没し、世俗化の波に吞まれる姿勢も批判される今日、貧しく小さき者の友として生涯を生き抜いた山室は今、再評価に値する。

### 4-3. 社会福祉界（社会事業）での位置と評価

石井十次、留岡幸助らと並んで日本の三大社会事業者の一人と評価されるが、現代の社会福祉の教科書等で“巨匠”として評価されている。彼の社会事業の特徴は、その事業の幅の広さと抜群の組織力である。特に、娼妓廃業、労働紹介所を設置した失業対策、貧困者のためのサービス、そして児童虐待防止法等の問題に着手するなど社会問題に対峙した幅の広さとその組織力は驚くべきものがある。

通常、「慈善→社会事業→（厚生事業）→社会福祉」という段階の変遷で社会福祉の歴史は説明される。彼の事業が、恣意的な慈善から、より社会的なコンテクストを踏まえた社会事業への道筋をつくったという意味で高く評価されよう。まさに「日本の社会事業中の社会事業」（田川大吉郎）という言葉に集約される。

ただし、リアリストとしての実践家、宗教的保守傾向のゆえか、国家権力や皇室への無批判な従順は、抵抗不在の論理として批判され、戦前戦中の救世軍の体制迎合問題体質とともに批判されるところでもある。

### 年譜

1872	0 歳	岡山県阿哲郡哲多町（現在の新見市）に誕生	1892	20 歳	石井十次とブース著『最暗黒の英国と其の出路』研究
1886	14 歳	養家を家出して東京へ 一日本来日	1894	22 歳	同志社中退 高梁教会伝道師
1887	15 歳	路傍伝道でキリスト教と出会う	1895	23 歳	岡山孤児院の開墾地・茶臼原へ 救世軍入隊
1888	16 歳	受洗 築地福音教会（メソジスト系） 福音神学校入学	1896	24 歳	8 月 20 日早朝神奈川富岡海岸にて 「聖潔（きよめ）体験」
1889	17 歳	同志社夏季学校出席 同志社入学 石井十次（24 歳）と出会う	1897	25 歳	路傍伝道中に警察に拘留される
1891	19 歳	濃尾震災にて石井と孤児救済	1899	27 歳	山室機恵子（佐藤キエ）と結婚 『平民之福音』出版（500 版 50 万部越）

1900	28 歳	機恵子・醜業婦救済（婦人救済所） 所長 たみ（民子）誕生 廃業希望娼妓の支援で暴漢に襲われ重傷	1914	42 歳	石井十次死去『社会廓清論』出版
1902	30 歳	長男武甫（ぶほ）誕生	1915	43 歳	藍綬褒章
1904	32 歳	渡欧（後に 9 回）	1916	44 歳	機恵子死去
1906	34 歳	労働紹介部、女中寄宿舎等開設	1917	45 歳	水野ゑつ（山室悦子）と再婚
1907	35 歳	ウィリアム・ブース来日 40 日間 講演、伝道 通訳	1921	49 歳	司令官デュースと対立 『民衆の聖書』 児童虐待防止運動
1908	36 歳	大学殖民館開設（～14）	1923	51 歳	関東大震災 災害支援
1912	40 歳	救世軍大将ブース死去（息子ブラム エル継承）	1926	54 歳	大将ブラムエル・ブース来日 日 本司令官となる
1913	41 歳	神田の失火 大学殖民館の失火と の風評で反省文	1930	58 歳	中将へ昇格
			1937	65 歳	妻悦子死去
			1940	68 歳	3 月 13 日死去 『平民の福音』発 行停止

## 著作一覧

『平民の福音』1899 年	『特選の民』1919 年
『ブース大将伝』救世軍日本本営 1906 年	『基督教と日本人』1920 年
『日本に於けるブース大将』（来日記録） 1907 年	『民衆の聖書』1921～（マタイ、使徒、マルコ、 22～ルカ、ヨハネ、ロマ書、旧約・・・）
『青年への警告』1911 年	『病床の慰安』1921 年
『実行的基督教』1911 年	『私の青年時代』1929 年
『禁酒の勧め』1912 年	『十分一献金論』救世軍出版 1930 年
『社会廓清論』1914 年	「山室軍平選集」全 10 卷（山室武甫編、山室軍平 選集刊行会、昭 26～31）
『使徒的宗教』1916 年	
『不幸女の救護』1917 年	
『基督の精兵』1919 年	

## 研究書・関連文献

三吉明(1971)『山室軍平』吉川弘文館

木原活信(1993)「同志社のアイロニー —山室軍平の中途退学—」『新島研究』第 82 号

同志社大学人文科学研究所(1991)（『山室軍平の研究』（同志社大学人文科学研究所研究叢書 (22)）同朋社

「山室軍平」人と思想シリーズⅡ（高道基、日本基督教団出版局、昭 48）「人道の戦士 山室軍平」（玉川大学出版部、昭 40）「民衆の友 山室軍平」（山室武甫、明るい生活の会、昭 25）「民衆の友 山室軍平回想集」（山室武甫編、山室軍平記念会、昭 40）「献身の生涯 山室救世軍中将を偲ぶ」（植村益藏、救世軍出版及供給部、昭 15）「日本救世軍の父山室軍平の一瞥」（秋元巳太郎、救世軍出版及供給部、昭 15）「山室軍平の生涯」（秋元巳太郎、救世軍出版供給部、昭 29）「山室軍平やさしさを生きたる」（哲多町、平 9）「平民使徒山室軍平」（関根文之助、不二屋書房、昭 10）「山室軍平」伝記叢書 22（鎌田研一、大空社、昭 62）「山室軍平の研究」（同志社大学人文科学研究所編、同朋舎出版、平 3）「伝記小説山室軍平」（鎌田研一、実業之日本社、昭 11）「留岡幸助永眠十周年・山室軍平永眠三年追憶記念集」（岡山県社会事業協会編・刊、昭 18）

# 映画の製作を通して山室軍平について考えたこと

映画監督 東條政利

## 1 この映画ができるまで

### 1) 企画

石井十次、留岡幸助に続いて山室軍平を  
最初はドキュメンタリーの映画として企画された

### 2) テーマ

山室の業績を描くものではなく精神を描く映画に

## 2 映画の中の山室軍平

### 1) 少年時代（岡山・本郷）

貧しい農家で父母と過ごした9年間  
母の卵断ち

### 2) 少年時代（岡山・足守）

質屋の叔父のところに養子に  
家出

### 2) 少年時代（東京）

15歳で一人で働いて生きることとなった軍平  
築地活版印刷所  
キリスト教との出会い  
徳富蘇峰を通じて新島襄を知る  
ジョージ・ミューラー

### 3) 同志社時代

9年ぶりに故郷に戻り父母と再会  
先輩の吉田清太郎との出会い  
貧しい中での学生生活  
新島襄の死  
同志社を卒業前に出る

### 4) 救世軍時代

救世軍と山室軍平  
自由娼妓廃業運動をなぜ映画の中で描いたか  
人のために生きるということ

## 良心学研究センター主催 公開シンポジウムのご案内

- 12月3日（土）13:00-15:00、今出川キャンパス 神学館3階 礼拝堂  
「新島襄と良心——その歴史的背景」  
【講師】伊藤 彌彦（同志社大学 名誉教授）  
【コメンテーター】出原政雄（法学部 教授）、中村信博（同志社女子大学 学芸学部 教授）
  
- 1月28日（土）13:00-15:00、今出川キャンパス 同志社礼拝堂  
「持続可能な文明を求めて——エコロジカルな良心の実践」  
【講師】ジョン・カブ（John B. Cobb, Jr.）（クレアモント神学校 名誉教授）  
【コメンテーター】小原克博（同志社大学 神学部 教授、良心学研究センター長）  
林田 明（同志社大学 理工学部 教授）

※良心学研究センターが主催した過去のシンポジウムの配付資料や動画は、すべてウェブサイト（<http://ryoshin.doshisha.ac.jp>）や YouTube で公開されています。ぜひ、ご覧ください。